

# 教職支援室便り (1月号)

令和4年 1月 14日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

## 教員採用選考試験英語科合格者数 (九州各県)

採用年度		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	30年度	29年度
宮崎	中	11	10	15	11	11	10
	高	7	2	6	3	6	2
沖縄	中	12	14	15	15	17	16
	高	4	7	7	5	4	4
鹿児島	中	20	20	20	18	15	14
	高	3	3	3	4	3	2
大分	中	20	20	22	22	12	15
	高	3	10	6	9	6	6
熊本	中	13	11	13	12	14	12
	高	3	2	2	3	2	2
長崎	中	11	14	14	12	9	9
	高	9	8	7	5	5	8
佐賀	中	20	17	14	14	10	8
	高	5	5	4	4	7	6
福岡	中	52	49	36	40	46	40
	高	16	18	27	32	22	31

現在、教員採用選考試験においては、小学校教員の採用者数が全国的に多い一方で、中学校英語、高等学校英語については、受験者の減少傾向はあるものの、本資料の合格者数からも、依然厳しい状況にあると言えます。また、大学生の皆さんにとっては、学校現場で勤務している、臨時的任用講師等の先生方との競争試験であることから、本当に狭き門であると考えます。

本学では、教員採用選考試験に向けて「教職特別講座」を行っていますが、学生の皆さんの自助努力も不可欠であり、英語力を磨くこと、向上させることは、合格への必須要件です。トータル730点以上、英語検定試験準1級以上等の資格取得に向けて、積極的に英語力向上に取り組んでほしいと思います。更には、教職教養に関する知識を習得、活用して、教育問題に対する自己の考えを、十分に表現する力を身に付けなければなりません。教職教養の演習で培われる力は、一次試験「筆記試験」だけではなく、二次試験「面接、集団討論、グループワーク、小論」等にも、大きく影響します。

大切なことは、一次試験に向けて、意図的・計画的に、誠実に「教職特別講座」の演習に取り組むとともに、自分で工夫しながら勉強を進めていくことです。担当者としては、学生の皆さんのあらゆるニーズに、応えていきたいと思いますが、各自「主体性」をもった取組が重要です。1年の間には、壁にぶつかることもあると思いますが、問題意識・課題意識をもって、粘り強く取り組んでほしいと思います。私も学生の皆さんと、充実した1年を過ごしたいです。

# 学校現場の先生からのエール



昨年12月16日（木）、教職実践演習の授業において、外部講師として、宮崎市立七野小学校の中村貴一（なかむら きいち）先生が、「教職の魅力や苦労」等について講話をされました。教職実践演習は、これまでの教職課程の授業を総括するものであり、それを踏まえると、教職に就く学生の皆さんにとって、貴重な時間になったと考えます。

また、中村先生からは、学生の皆さんへのエールもいただきました。心から感謝いたします。

## <中村先生からのエール>

この度は、教師を目指す学生の方々に話をする貴重な機会をいただき、ありがとうございました。私自身、これまでの経験や実践をふり振り返りながら、自分の指導を「何のためにしているのか」と、その目的や意義を見つめ直すよいきっかけになりました。

講話の準備をするにあたり、事前にアンケートをとらせていただきましたが、その回答から、「教師」という仕事を目指す上で、学生の皆さんが抱えている期待や不安を感じました。また、将来、教師になったときの自分を具体的にイメージして、今からできる準備をしておこうとする前向きな姿勢に感心しました。そんな学生の皆さんの期待がより高まるように、不安が少しでも解消されるようにという思いで、話をさせていただきましたが、何か1つでも今後の教職人生の一助になるものがあつたなら嬉しく思います。

将来の変化を予測することが困難な時代と言われる今、学校教育に求められていることは何か。確かな学力を身に付けさせること、生きる力を育むこと、多様性を認め、多面的・多角的な目を養うことなど、多種多様な要求が現場にはきます。それらの要求を整理し、今の自分にできることは何かを冷静に見極め、目の前の子どもたちのために最大限努力すること。これが、「教師」人生のスタートを切る皆さんにできることだと思います。

「教師」を志してくださりありがとうございます。皆さんとの出逢いを待っている子どもたちがきつといます。未来を生きる子どもたちに対して、「あなた」にしかできないことがきつとあります。そう信じて、自分の理想とする教師像や学級像を追い求め続けてください。皆さん一人一人の思いが、子どもたちに届き、未来がよりよいものになることを願っています。そして、皆さん自身の未来も素晴らしいものになりますように。

# スクールトライアル事業について

令和3年度のスクールトライアル事業（宮崎県教育委員会主催）が、昨年9月から12月にかけて行われました。この事業には、本学の2年生10名、3年生8名、計18名も参加しました。この事業の目的、内容は次の通りです。

## 1 目的

子どもへの愛情や教育に対する情熱をもつ教職希望者を育成するためには、早い段階から学校や子どもの状況を知ることが重要であることから、教育実習とは別に、教職を希望する学生に対して、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供する。



## 2 内容

学生が3日間程度、始業から終業まで教員と行動を共にし、教員の日常の職務内容を体験する。

- 具体的な観察内容（職員朝会、授業、給食、清掃、諸会議、研修、部活動等）

< 体育授業参観の様子 >

## 学生の皆さんの感想

3日間という短い期間でしたが、たくさんのことを学ばせていただきました。特に、現代社会に対応した学校の在り方には驚きました。ICTの活用、制服の衣替え廃止など、教育と社会との強い結びつきに気付くことができました。また、先生方は、授業準備等で大変だと言われていましたが、生徒達と関わっている時間は、すごく楽しそうでした。

この体験を通じて、教職は大変ではあるが、それ以上にやりがいがあり、教員は楽しい仕事であると強く感じました。さらに、教員になりたい気持ちが強まりました。

私は、本体験を通して、子どもたちや先生方から多くのことを学ばせていただきました。子どもたちは、とても明るく元気で積極的に話しかけてくれました。担任の先生の学級経営力が様々な場面で、感じ取れました。子どもたちをよく見てたくさんほめること、お互いを認め合い尊重し合うことなどの方針が、印象的でした。

本体験を通して、小学校の教員になりたいという気持ちが強くなりました。先生方を見て、私もこのような授業がしたい、このように子どもたちと関わりたいと思いました。

私は今回、大学2年生の早い時期から、実際に先生はどのような仕事をしているのか、また授業以外の活動は何があるのかを詳しく知り、改めて「小学校の先生になる！」と気合を入れ直すために、このスクールトライアル事業に参加しました。心から参加してよかったと思えるほど、充実した3日間になりました。

学んだことがたくさんあり書ききれませんが、この学んだことを糧に、これからの大学生活もがんばりたいと思います。

なお、学生の皆さんの感想については、2月号でも掲載します。

# 道徳の教科化に思う！（シリーズ56）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、道徳授業に関する、学生の皆さんへのアンケート調査結果について掲載します。

## 1 アンケート調査項目

<1> 小学校、中学校のとき、道徳の授業は好きでしたか。考えに近い項目を選び、その理由を書いてください。

- ・好きだった
- ・好きではなかった
- ・どちらとも言えない

<2> 小学校、中学校のとき、心に残る道徳授業はありましたか。

- ・ある
- ・ない

## 2 アンケート調査結果

<1>の項目

### ① 好きだった・・・32%

#### 【理由】

- 物語が好きだった。
- 意見や考えを聞くのが好きだった。
- 登場人物が何を思っているのかを考えるのが好きだった。
- 読み物がたくさん読めた。
- 何を言っても先生が肯定的だった。
- 教科より気楽に取り組めた。
- たくさん発表できた。
- 特に何もすることがなかった。
- 教科の勉強をしなくてよかった。

### ② 好きではなかった・・・16%

#### 【理由】

- 何をしているのかわからなかった。自習だった。
- 周りと同じような考えを言わないと、正解ではないような気がした。
- 発表するのが嫌だった。
- 正しいことを言わないといけないと思っていた。
- 文章を読み上げて終わっていた。

### ③ どちらとも言えない・・・52%

#### 【理由】

- 楽な授業だったのでよかったが、きれいごとを言わないといけなかった。模範解答を言っていた。
- よいことを押し付けられるように思っていた。
- 何をしているのか、よくわからなかった。
- いろいろな資料を読むのは好きだったが、答えを同じところに導かれるのが嫌だった。

#### 【理由】

- 授業から離れてしまうと、何もなかったかようになっていた。
- 小学校では好きだったが、中学校ではあまり好きではなかった。
- 感動的な話も多かったが、答えを押し付けられると感じていた。
- 悲しい資料を読むと心が暗くなったが、大切なことだと思った。
- あまり記憶がない。具体的に思い出せない。
- 国語の授業を受けているようだった。評価がなかったのはよい。
- 先生によって違っていた。
  - ・考えさせる授業をした先生
  - ・読んで感想を言わせて終わる先生
  - ・道徳授業をしない先生
- 印象に残っている授業がない。
- 退屈だったのでよかったが、それ以上は思い出せない。
- 早く終わらせて、のんびりする時間だった。
- 資料を読むのは好きだったが、授業は楽しくなかった。

#### <2>の項目

- ある・・・39%
- ない・・・61%

### 3 所感

学生の皆さんは、小学校、中学校時代の道徳授業について、正直に各項目に回答していると思います。アンケート調査結果の中には、これまでの道徳授業の問題や課題が散見されます。「模範解答を言っていた。よいことを押し付けられるように思っていた。」などの反応からは、形式的な授業を受けていたことが考えられます。また、道徳授業が実施されていたのか？と思わせる反応もありました。これらは、道徳が教科化された理由の一つです。

しかし、一方で肯定的な反応もあります。特に、「何を言っても先生が肯定的だった。考えさせる授業をした先生がいた。」などからは、真摯に道徳授業に取り組む先生方がいたことがわかります。まさに、「教育は人なり」です。

このシリーズ「道徳の教科化に思う」は、教職を目指す学生の皆さんと、学校現場の先生方への支援になればと連載しています。今後も、連載していきます。